

Q 30 学校は閉鎖的だとよく言われますが，そうした批判をなくすためにも，保護者や地域住民の意見を聞いたり，その意見を学校運営に反映していくことが必要ではないでしょうか？

A そのとおりです。

そのための仕組みづくりとして，次のような取組を行っています。

学校教育活動の自己評価の実施

今後，学校が，子どもたち一人一人の個性に合った教育を行い，各地域の特色を生かした教育を行っていくためには，家庭や地域との連携・協力をより一層強くしていくことが求められています。

このため，校長がどのような教育方針を立て，その方針の下でどのような教育活動を行っているのかについて，保護者や地域の方々に十分ご理解いただき，開かれた学校づくりを目指すことが重要です。その際，学校がきちんと教育を行っていることを明らかにしていくためにも，どのような教育を行い，どのような効果をあげているのかについて自ら評価し，その結果を保護者や地域の方々に公表し十分説明していくことが大切です。こうした家庭や地域に対する働きかけや説明を行っていくことにより，学校，家庭，地域の間信頼関係が築かれ，子どもたちが健やかに育つ環境が作られていきます。

こうしたことから，文部省では，それぞれの学校で，教育目標や教育計画などを年度の初めに立てて保護者や地域の方々に説明したり，その達成状況などを自己評価して説明するよう，各教育委員会に対して積極的な取組をお願いしています。また，より良い自己評価を行うための方法についても研究を行っているところです。

「学校評議員」制度の導入

学校，家庭，地域の連携協力を強化するため，これまでも，それぞれの学校では，PTA，同窓会，青少年団体などの関係団体から学校の教育活動について意見を聞く機会をいろいろ設けてきました。今後，学校を地域により開かれたものとしていくため，こうした学校と学校外の地域団体などとの連携というだけではなく，保護者や地域の方々から意見や助言をいただき，それを学校の運営に反映していくことができるような新たな「学校評議員」制度の導入を検討しています。

具体的には，学校の種類や目的などに応じて，学校外の有識者，関係機関・青少年団体などの代表者，保護者など広い範囲から選ばれた「学校評議員」が，校長の求めに応じて，学校教育や学校と地域との連携の進め方など，校長が行う学校の運営について意見を述べたり，助言したりすることなどが考えられます。

この学校評議員は，各学校が様々な特色ある教育活動に積極的に取り組むことができるよう，地域が学校をしっかりと支えていく制度として発展していくことが期待されています。